



# 電子機械設計・製作 I

week 8

PoC計画

## 電子機械設計・製作 I (2単位: 週1回4コマ)

Week1	4/11	ガイダンス・システム解説	
Week2	4/18	チーム発表・システム解説	
Week3	4/25	ニーズ調査	
Week4	5/2	安全講習 / プロジェクト企画	
Week5	5/9	プロジェクト企画	
Week6	5/16	プロジェクト企画 / PoC構想	→ ペルソナ想定
Week7	5/23	PoC構想	→ リーンキャンバス
Week8	6/6	PoC構想	→ PoC計画
Week9	6/13	中間発表会 進捗報告会 (~PoC構想)※	
Week10	6/20	PoC設計・製作	
Week11	6/27	PoC設計・製作	
Week12	7/4	PoC設計・製作	
Week13	7/11	PoC評価	
Week14	7/18	中間発表会 (ポスター発表)	
Week15	9/26	前期まとめ / PoC振り返り	

※ [PoC構想のドキュメント例](#)

## 本日（PoC計画）のゴール

1.ペルソナと2.リーンキャンバスをもとに、3. PoC（概念検証）計画の骨格を整理する  
以下の仮説検証に必要な要素を設定する



- ✓ PoC構想 **ドキュメント**
- ✓ **進捗報告会**（6/13）

※ [PoC構想のドキュメント例](#)  
**MIRS250\*-DSGN-0001**

- 3.1 目的
- 3.2 検証内容
- 3.3 検証環境
- 3.4 使用機材・技術
- 3.5 成功基準（KPI）
- 3.6 リスクと対策

4. 使用物品（購入物品）

## 成功基準(KPI)について

💡 KPIとは？

**KPI (Key Performance Indicator) = 「重要業績評価指標」**

👉 つまり、「**PoCがうまくいったかどうかを測る基準**」

🔪 なぜKPIが必要か？

- ✓ 主観ではなく、誰が見てもわかる判断基準を設定するため
- ✓ チームや関係者間で「うまくいった」の基準を共有するため
- ✓ PoC後の改善や判断につなげるため

📝 記入例（現場でのPoCを想定）

- ✓ 資材探索時間が**平均30%削減**
- ✓ 作業員のミス発生**件数がゼロ**

（測れない場合は、観察・アンケート・記録などの方法を考えてみよう）

## 使用物品・購入物品

- ✓ 購入はPoC検証に必要な最小限のものにする
- ✓ 借用品・モックアップ（紙や端材などで試作したもの）・ジャンク品を最大限活用
- ✓ 物品購入については小谷先生より

## 現場のメンターとの壁打ち

- ✓ 各現場の担当者にPMが連絡し日程を調整  
(授業時間外でも集中講義として実施)
- ✓ オンライン会議等を活用して“壁打ち”※
- ✓ メールでは現場ごとの担当教員にCcを入れる

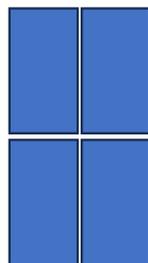
### 【壁打ちの場で気をつけること】

- 💡 完璧じゃなくてOK : 「詰めが甘い」段階でも壁打ちしていい
- 🧠 修正前提で臨む : 否定ではなく“現場に合わせた磨き”の機会
- 🗨️ メモは必須 : メンターの口調や表情にもヒントあり
- 🙏 感謝を伝える : 「現場の声が本当にありがとうございます」と素直に

※ 壁打ち = アイデアをぶつけて、跳ね返りから学ぶ時間

席の配置

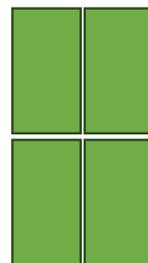
MIRS2501



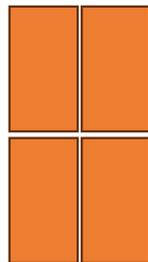
MIRS2501



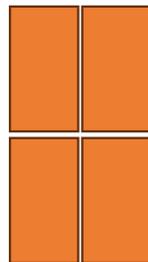
MIRS2504



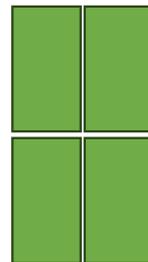
MIRS2502



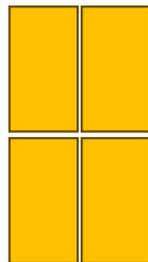
MIRS2502



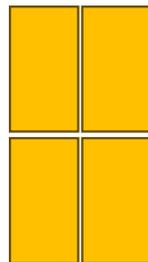
MIRS2504



MIRS2503



MIRS2503



## 今後の作業

- ① Plan A の構築（軸案）：  
チームとして実現性・意義ともに最も有望と考える案。メンターと壁打ちに使う案。  
MIRSTドキュメント(html)への掲載とともに、要点をスライドにまとめる→6/13に使用
- ② Plan B の構築（補完案）：  
視点・技術・KPIなどを一部変えた別アプローチ案。Aがうまくいかないときの保険にも。
- ③ 両案の比較検討：  
選定理由・違い・共通部分などを明確化し、Plan Aを選んだ根拠を持たせる。
- ④ メンターとの壁打ち調整：  
授業時間内 or 後日対応のための候補日時を出し合っておく。